

→p.72 ~ p.73

- 1 エ
- 2 ア, ウ, エ
- 3 ウ
- 4 ウ
- 5 ア, ウ

解説

- 1 ア…生産額も生産量も、前年より減っている年があるので、誤り。
 イ…2008年と2013年の生産額の差が最も大きいのはくろまぐろであり、ふぐ類ではないので、誤り。
 ウ…2013年の生産量を比べると、くろまぐろよりぶり類のほうが多いが、同年の生産額では、ぶり類よりくろまぐろのほうが多いので、1 tあたりの生産額は、ぶり類よりくろまぐろのほうが多くなる。よって、誤り。
 エ…まだいの生産額は2009年と2013年ではほぼ変わりがないが、生産量は2013年のほうが少ないので、まだいの生産量1 tあたりの生産額は、2009年より2013年のほうが多い。よって、正しい。
- 2 ア…軽工業は、金属・機械・化学以外のすべての工業なので、食料品とその他の割合を合計する。中京工業地帯の機械の割合は69.4%、軽工業は15%。京浜工業地帯は、機械が45.5%、軽工業が28.5%。阪神工業地帯は、機械が36.9%、軽工業が25.4%。北九州工業地域は、機械が46.6%、軽工業が31.5%。したがって、いずれも軽工業の割合のほうが少なく、正しい。
 イ…重化学工業は、金属・機械・化学工業のこと。中京工業地帯は85%、京浜工業地帯は71.5%、阪神工業地帯は74.6%、北九州工業地域は68.5%。または、アで求めた軽工業の割合が30%を超えていないかで確認してもよい。北九州工業地域のみ重化学工業の割合が70%を超えていないので、誤り。
 ウ…グラフの左の工業地帯(域)名の下の数値を比べると1位が中京工業地帯なので、正しい。
 エ…化学の割合は、中京工業地帯が6.2%、京浜工業地帯が15.9%、阪神工業地帯が17.0%、北九州工業地域が5.6%で、阪神工業地帯の割合が最も大きいので、正しい。

- 3 P…就業者総数は、グラフ全体の長さで見る。定規で長さを測って比べてもよい。2000年は約6,200万人、1950年は約3,600万人。したがって、2倍以上にはなっていないので、誤り。また、第二次産業人口についても、2000年は1990年に比べて減っている。
 Q…第三次産業人口は、2015年は約4,000万人、1950年は約1,000万人なので、3倍を超えている。また、第三次産業人口が増え続け、1980年には50%を超えている。よって、正しい。
 第一次産業(農林水産業)で働く人の数が減り、第三次産業(商業・サービス業など)で働く人の数が多くなっていることがわかる。
- 4 ア…1970年度に自給率が80%を上回っているのは果実・野菜・肉類・米。いずれも、2010年度は1970年度より自給率が低下しているので、正しい。
 イ…米の自給率が小麦の自給率の7倍以上なのは、1970年、1980年、2000年、2010年の4つの年度。そのうち、2000年と2010年は米の自給率が100%を下回っているので、正しい。
 ウ…1980年度から1990年度にかけて、果実は81%→63%、野菜は97%→91%、肉類は80%→70%に低下した。自給率が最も低下したのは果実であるので、誤り。
 エ…自給率が低下したのは1970年度と1980年度で果実、野菜、肉類、米の4品、1980年度と1990年度では果実、野菜、肉類の3品、1990年度と2000年度では果実、野菜、肉類、米、小麦の5品、2000年度と2010年度では果実、小麦の2品。自給率が低下した品目の数が最も多いのは1990年度と2000年度の間なので、正しい。
- 5 ア…2014年における神戸のコンテナ取扱量は、 $21808(\text{千個}) \times 0.12 = 2616.96(\text{千個})$ 、1980年は1456(千個)なので、増加しており、正しい。
 イ…2014年は中国の上海が第1位であり、アジア州に属する国の港であるが、1980年はアメリカ合衆国のニューヨークが第1位であり、北アメリカ州に属する国の港なので、誤り。
 ウ…1980年、神戸は第4位であるが、2014年は、神戸は上位5港にふくまれていないので、正しい。
 エ…2014年の第1位の港である上海のコンテナ取扱量は35,285千個、日本の上位5港のコンテナ取扱量を合わせた量は、 $21808(\text{千個}) \times 0.714 = 15570.912(\text{千個})$ であり、約2.3倍でしかないので、誤り。